



Atsuko Kudo Mail Magazine 240

2020.08.24 アイヌ民族

素晴らしい主の御名を賛美します。

皆さま、いかがお過ごしでしょうか。
皆さまのお祈りと励まし、ご支援に、心から感謝しています。

しばらくコンサート活動が出来ない状況が続いていますが、札幌の実家と大阪の事務局を行き来し、札幌では父の介護、大阪では祈りとみことばに集中する時を持っています。現在は札幌です。昨年二回の腰椎骨折と入院中の内出血で危険な状況を通じた93歳の父は、皆さまのお祈りに支えられ、歩行器を使って3キロの散歩が出来るまで回復しました。知的障害者の妹は、今月は毎週末グループホームから帰省し、幸いな時を過ごしています。

今回は、皆さんに、アイヌ民族のことを知って祈っていただきたいと思い、長文になりましたが、久しぶりのメルマガを送らせていただくことにしました。

●ウポポイ

先日、白老に開園したウポポイ（民族共生象徴空間、国立アイヌ民族博物館）に行ってきました。国立だけあって、広大な敷地に、博物館、コタン（部落）、交流ホール、工房、湖、川など、アイヌ文化とその歴史を紹介する素晴らしい場所でした。

アイヌは、長い間、迫害と差別を通過してきた民族です。



2016年に台湾の原住民族の教会を周った際、ブヌン（布農）族の文教基金会を設立された、白 光勝牧師（写真手前に座っておられる方）にお会いしました。1984年、ブヌン族の多くが住む台東県延平郷で、白牧師は、ブヌンの子供たちを教育し始めました。それまで虐げられてきた原住民の子供が社会に出て、まっとうな仕事を得るためには、まず良い教育が必要であると考えたからです。独自の文字を持ち、民族意識が高く、団結力も強かったブヌン族は、白牧師の指導のもと、勉学に励みました。1992年には、原住民では初めての「布農幼稚園」、1995年には、布農文教基金会による施設、布農部落休閒農場を建てました。



白師は、「台湾の原住民は、40年という時を経て、やっとそれぞれの文化が認められ、自分たちの言語で教育を受けられるようになった。しかし日本のアイヌはまだまだだ」、と、随分前から、小児麻痺の体で足繁く北海道に通い、アイヌ伝道をしている牧師らと、道や国に働きかけて来られました。

●アイヌ民族の歴史 ※2005年のメルマガ71号に記載した内容です。

近年、DNA鑑定の結果、縄文時代の人々が、アイヌ人の祖先ではないかと言われているそうです。和人（日本人）の記録にアイヌの人たちが現れるようになったのは、約700年前です。

和人とアイヌの摩擦は、すでに北海道開拓以前からありました。

15世紀の鎌倉時代に、北海道の館（現在の函館市、上磯町、上ノ国町、松前町など）で、「北の戦国時代」と呼ばれる戦いが100年にわたって続きました。その一番大きな戦いが、「コシャマインの戦い」と呼ばれる戦いで、最後にアイヌは敗れました。

徳川幕府時代、豊臣秀吉から蝦夷島（道南）の支配者としての地位を認められた松前慶広（前、蠣崎慶広）によって、アイヌ民族は松前藩の管理下に置かれました。松前藩は、和人地と蝦夷地（アイヌの地）を区分し、アイヌ民族支配を強化しました。アイヌ民族は、米と鮭の交換レートを改悪され、それに抵抗した戦いが、「シャクシャインの戦い」です。しかし、松前軍は偽りの和睦を結び、酒宴の場でシャクシャインを暗殺し、アイヌ軍は敗北しました。

18世紀に入ると、不当な交換レートと漁場での強制労働を強いられ、出稼ぎ労働を余儀なくされたアイヌ民族は、1789年、「クナシリ・メナシの戦い」を起こします。その二ヶ月後、和人を殺したとされるアイヌ人37人が処刑されました。これが、アイヌ民族の和人に対する最後の戦いとなりました。

1869（明治2）年、明治政府は、蝦夷地を北海道と改め、**開拓吏**を設置、**アイヌ民族同化政策**をとります。この政策は、アイヌ民族も国家の構成員とし、**1）アイヌ民族の伝統的生活風俗習慣の否定 2）伝統的狩猟・漁労の禁止 3）農耕の奨励**を基本方針としました。

1871（明治4）年、政府は、アイヌ民族の呼称を「**旧土人**」に統一、アイヌの人々が生活してきた土地を国家が取り上げ、和人に私有権を認めました。アイヌ民族は土地を取り上げられ、農耕だけでは生計を立てることができなくなったため、栄養失調、疫病による死者が増加しました。

1899（明治32）年、「**北海道旧土人保護法**」が制定され、アイヌ民族を日本の「臣民」として認可、教育と農業化によって困窮から彼らを救済しようとしたのですが、アイヌ民族の困窮はさらに進行しました。

●アイヌの父と慕われたジョン・バチェラー

そのような中で、1877（明治10）年、イギリス人宣教師ジョン・バチェラー夫妻が来道し、アイヌの人々の悲惨な生活と病や差別に苦しむ姿を見て、それを改善するために、明治から昭和にわたって、アイヌ民族の保護を訴え、アイヌ民族救済に大きな貢献をしました。

平取では、バチェラーの働きによって、多くのアイヌ人たちがキリストを信じるようになりました。バチェラーは、ここに自費で教会を建て、次の伝道地、伊達町有珠でも、アイヌの人々のために教会を建てました。今、伊達市では、バチェラーの建てた教会が、ジョン・バチェラー記念館として保存され、平取町では、彼の名を取った「バチェラー保育園」が開設されています。

1889（明治22）年には、日本語と英語に翻訳した**アイヌ語辞書**を編纂しました。このことによって、和人はもとより、世界中にアイヌのことが知られるようになり、その後のアイヌ語研究の糸口にもなって行きました。

1892（明治25）年に札幌に転居したバチェラーは、自宅の隣に、アイヌ民族のために、無料の診療所を開設しました。彼の熱心さに賛同する人々の協力は増えて行きました。札幌市立病院院長もボランティア診療をしたため、評判は全道に広がりました。遠方からたくさんのアイヌがやってくるようになり、患者の多くが信仰に導かれ、身も心も癒されて行きました。

同時に、自宅の別館に「**アイヌ・ガールズ・ホーム**」を建築。身寄りのないアイヌ女子児童を引き取り、勉強を教えました。彼は、その中のひとり、向井八重子を養女に迎えました。以後、彼女は、**バチェラー八重子**として父親を助け、各地で講演活動を行い、アイヌ民族救済を訴え続けました。



1920（大正9）年、バチェラーは、「**アイヌ教化団**」という、アイヌ民族に中等学校以上の教育を受けさせる救援団体をつくりました。その先駆けとして建てられたのが、**バチェラー学園**です。この学園から、昭和15年に閉館されるまで、多くのアイヌの青少年が、教師、獣医、無線技師などとして、未来へ向かって羽ばたいて行きました。

1923（大正12）年、70歳のバチェラーは宣教師を退職してからも、アイヌ民族救済活動を続け、札幌に骨を埋めるつもりでいましたが、1940（昭和15）年、第二次世界大戦による反英感情が高まる中、帰国を余儀なくされました。「必ず戻る」と養女、八重子に言い残しましたが、終戦を待たず、1944（昭和19）年に、90歳で故郷イギリスで天に召されました。

★★★★★

今年で北海道開拓152年、アイヌ民族がやっと日の目を見ることができるようになった陰には、アイヌを愛する多くのキリスト者の祈りと働きがありました。

世界には24,000の民族がありますが、これまで約23,500民族に福音が宣べ伝えられて来たそうです。1989年には11,000民族でしたが、今や残るは500民族。すべての民族に福音が伝えられたら、異邦人の救いの時が満ち、今度はユダヤ人の救いが始まります。いよいよラストステージです。

その後、私は見た。すると見よ。すべての国民、部族、民族、言語から、だれも数えきれないほどの大勢の群衆が御座の前と子羊の前に立ち、白い衣を身にまとい、手になつめ椰子の枝を持っていた。彼らは大声で叫んだ。「救いは、御座に着いておられる私たちの神と、子羊にある。」（黙示録7:9-10）

同化政策により和人化してきたアイヌ民族ですが、今、アイヌにルーツを持つ人々が自分たちのアイデンティティを回復し、民族として認められるようになりました。これは、終わりの時に至り、イエス・キリストを信じるアイヌたちが、ひとつの民族として御座についておられる方と小羊を賛美するための、神様の準備なのだと思います。しかしながら、他の多くの民族がそうであるように、アイヌ民族も他の神々に深く結び付いた文化を形成してきました。ですから、彼らにまことの神様を伝え、熱心に救いを祈って行かねばなりません。皆さまも、アイヌ民族を覚えて、共にお祈りいただけますなら感謝です。

♪ YouTube

先月あたりから、今できる伝道は何かと祈り考え、スイス日本語教会の松林幸二郎さんが、以前、これまでのコンサート録画から何曲かを配信用ビデオにしてくださったものがあったことに気づき、ホームページにクリップしようと、著作権申請を始めました。

現段階でアップできたのは、「主よ人の望みの喜びよ」、「鳥のうた」、「アメイジング・グレイス」、「よきかに守られて」、それに小岩栄光教会のゴスペルアワーに出演した時の「証し」です。お時間のある時にご覧いただき、伝道のために用いていただけますなら嬉しいです。<http://www.akworship.com/>

HPにアップしたYouTubeは、「主よ人の望みの喜びよ」以外は、トークの部分も収録されています。もう何年も前から、終末の緊迫感、救いの緊急性を感じながら語ってきましたので、今この時にも多くの方に聞いていただきたいメッセージです。ただ、歌の部分は、「主よ人の望みの喜びよ」はドイツ語、「鳥のうた」はカタルーニャ語、「アメイジング・グレイス」は1番と3番を英語で歌っています。そのため、松林さんに助けていただきながら、順次、日本語訳の字幕を入れて行く予定です。また、あと一曲「神だけがDios tan solo Dios」のビデオも、アメリカの著作権者から許諾が下りましたらアップさせていただく予定です。

🙏 祈り

新型コロナウイルスは、ワクチンが出来ない限り終息は難しいようです。

- コロナウイルスには何種類かあるそうですが、一日も早く、すべてのウイルスに効果があるワクチンが出来ますように、その開発者に主が知恵を与えてくださいますように。
- 感染された方々が一日も早く癒され、後遺症が残りませんように。
- 医療従事者が守られますように。
- 教会の礼拝とキリスト者の信仰が守られますように。
- このような中だからこそ多くの人々が救われますように。
- 教会と皆さまの経済を主が支えてくださいますように。

メルマガを受け取られている皆さまと、皆様のご家族、教会・集会を、主が豊かに祝福し、守りと平安を与えてくださいますように！

Atsuko Kudo

